

# Letter from Copenhagen

## コペンハーゲン通信 3 PartII



主要観光地の一つ、ニューハウンのクリスマス市。国会はクリスマス前に閉会されるため、予算案をはじめとする審議が急がれています。

### デンマーク王国 DATA

人口551万人(≒北海道)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「国際競争力5位(WEF)」「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。



当会事務局職員が、2007年1月より在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。

## 予算とブルカと難民と



### 樋口 麻紀子

在デンマーク日本大使館一等書記官(経済同友会事務局より出向中)

デンマークは、次年度予算に関する政党間交渉の真最中です。金融危機後の景気後退への対応、将来の競争力強化に向けた教育・研究開発費予算のあり方等、論点は多々ありますが、注目を集めた論点の一つは外国人受け入れに関する規制強化でした。

予算と移民政策。一見判じ難いテーマが結びつく理由の一つは、デンマークの政権基盤にあります。現政権の核を成す自由党と保守党、そこに閣外協力党のデンマーク人民党が加わり、国会で多数派を形成しています。主要政策については、基本的に野党を含む各党合意の形成を目指しますが、それが決裂しても、この三党の合意があれば大丈夫という訳です。地方議会選挙、総選挙を視野に与野党対決ムードが高まりつつある中、さまざまな論点が複雑に絡み合う予算成立のためには、デンマーク人民党の「Ja(デンマーク語でYes)」の重要性が高まっているのです。

デンマークは元々、外国人受け入れには慎重な立場を取っていますが、加えてこの数か月を顧みても、移民・難民に関わる問題が度々注目を集めてきました。その一つは、公共の場でのブルカ着用に対する規制。発端はイスラム系女性兵士が制服の一部としてブルカ(イスラムの女性が頭髪を覆うヴェール)を着用していることへの批判でしたが、論点はやがて、ブルカなどイスラム系移民の一部慣習が、民主主義・平等・人権を重視するデンマーク的価値観への移民の同化を阻害するという方向に転化し、一時は「ブルカ禁止法」の提出まで検討されました。

もう一つは、イラク難民に対する帰還政策です。今春のイラク・デンマーク政府の合意に基づき、デンマークへの難民申請が認められなかった人々は、安全な地域への帰還であることを前提に本国に送還される

ことが決まりました。これに反発した難民が一時教会に立てこもり、当局との衝突を経て、最終的にはイラクへの送還が開始され、既に45人が帰国しています。

デンマーク人民党は、政界では最右派に位置し、移民や難民の受け入れに最も否定的なスタンスを貫いています。こうした最近の動きを受けて、予算交渉の山場である今こそ、自説を主張する好機と見たのでしょうか。帰国を受け入れた難民に支払われる支援金の増額等の政策パッケージの立案を主張しているようです。識者はこの政治手法を批判し、政府も提案の全面受け入れは拒否しているようですが、他方、一般市民の間でもこの主張に一定の理解を示す声があります。

「われわれにとって多様性や個人の自由、人権の尊重は重要な価値観だが、高齢化に向かう高福祉国家のデンマークに、社会の一員たる意識に欠ける人々を多く許容する余裕があるのか、という議論もある」とは、とあるリサーチャーの発言です。例年、クリスマスまでに決着すべき予算案。本筋の経済政策に関する議論と並行し、その他の社会的課題に関する議論もまだまだ高まってきそうです。



男女の賃金格差を批判する展示。写真は地下鉄ホームに置かれた「男性用」の快適な椅子。一方「女性用」として粗末な木のベンチが置かれています。デンマークの男女平等意識の強さも、ブルカ問題の背景の一つのようです。